

ストーリー ドゥーラ物語 若年妊娠の支援



「私はこのために生まれてきた。
彼女たちひとりひとりと過ごす時
間が長くても短くても、彼女を慈
しむ。彼女が自分の子を慈しむ
ことができるように・・・。」

ロリーサ・ウェイジンガー
シカゴ・ドゥーラ・プロジェクト

シカゴの非営利団体 **The Kindling Group** は社会、市民、歴史的に重要なドキュメンタリー映画の制作を手がけています。**Daniel Alpert** 監督によってこれまでに作られた映画はアカデミー賞・ナショナルエミー賞ノミネート、PBS、HBO、A&E などによる放映、世界中のフェスティバルで公開されるなど高い評価を得ています。

Active Voice は、優れた映画を使ってアメリカの社会や個人の変革を目指す、コミュニケーションのスペシャリストのチームです。

地域保健団体 **Chicago Health Connection (CHC)** は、この映画の中で使われているドゥーラのモデルの発達と普及をしています。母子健康の擁護とサービスの提供など地域に根ざした活動をしています。

A DOULA STORY:

On the front lines of teen pregnancy

(日本語字幕 60分)

この映画は、アフリカ系アメリカ人のある女性が10代の母親たちを情熱的に支援する様子を描いたドキュメンタリーです。ロリーサ・ウェイジンガーは、自らも10代の時に母親になった経験を生かして、自分の地域に住む少女たちが母親になっていくプロセスを助けています。ロリーサはドゥーラ(ギリシャ語で「分娩コーチ」の意味)として、少女たちに母乳育児、読み聞かせ、医療者とのコミュニケーションなどを教育していきます。

アメリカでは約1割の出産は10代の少女に起こっていますが、彼女らの多くは貧困層で、教育を受けておらず、周囲からのサポートがありません。10年以上ドゥーラとして少女たちを支援してきたロリーサは、彼女らに必要なのはレッテルや哀れみではなく、ガイドや教育であると言います。ドゥーラたちは、忍耐、共感、ユーモアをもって若い母親とその子どもたちの将来に影響を与えていきます。

Director's View-NY 最優秀ドキュメンタリー賞
ミルウォーキー国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞
サンフランシスコ国際映画祭公式選抜
2005年 CINE ゴールドイーグル賞
Meritorious Journalism ケーシーメダル

推薦のこぼれ

「この示唆に富む感動的な映画を観ると、ウェイジンガーと少女たちが聴衆の頭から離れないだろう。」

Maureen Ryan
シカゴ・トリビューン紙

「中学、高校の保健の授業でこの映画を使って、生徒たちの視野を広げたいと考えています。」

Luz Alvarez-Martinez
国立ラテン系アメリカ人
保健団体取締役

「この映画は、自分たちがこのようなドゥーラプログラムを実現するためにどうすればよいかを深く話し合うきっかけをくれた。このようなプログラムがまさに必要とされているのである。」

Clare Taylor
ピューージェット湾地域健康センター
産科プログラムマネージャー

「医療従事者にドゥーラの価値を理解してもらうために、この映画はとて役立つでしょう。」

Margy Hutchinson
助産師 サンフランシスコ

日本語版制作に寄せて

日本では産科医や助産師の不足、過剰な医療介入のない自然な出産や満足度の高い出産経験を望む声の高まりなど、周産期医療の見直しが注目されています。「ドゥーラ」は産む女性に母親のように寄り添いながらサポートする新しい職業として、1990年代から北米を中心に急速に広まっています。人とのあたたかいつながりを感じられる人間らしいお産をめざすことによって、帝王切開などの医療介入が減るだけでなく、女性と赤ちゃん、その家族にさまざまな良い効果がみられることが多くの研究により明らかにされてきました。

この映画の中の少女たちの状況は日本とは異なりすぎて参考にならないのではと危惧する声があるのも事実ですが、日本の母子保健を良くするためのヒントが隠されているかもしれないという願いをこめて日本語版を制作しました。映画の内容について話し合うためのディスカッションガイドが付いています。

映画・DVD 購入についての情報は www.adoulastory.org ドゥーラについてもっと知りたい方は <http://www.crn.or.jp>